



JFE

JFEホールディングス株式会社

2022年3月期 第3四半期 決算説明会（インベスターズ・ミーティング）

2022年2月8日

登壇

司会：ご参加の皆様、大変長らくお待たせしました。これより、JFEホールディングスのインベスターズ・ミーティングを開催させていただきます。

本日の出席者は、寺畑雅史代表取締役副社長、田中利弘専務執行役員です。時間は、プレゼンテーション 30 分程度、質疑を 30 分程度の計 60 分を予定しております。

それでは、初めに寺畑代表取締役副社長よりご挨拶申し上げます。

寺畑：寺畑でございます。本日はご多用の中、弊社のインベスターズ・ミーティングにご参加いただきまして、誠にありがとうございます。

今回、通期のグループ全体の事業利益見通しは、鉄鋼事業および商社事業のセグメント利益の増益を見込み、前回公表の 3,600 億円から 300 億円増益の 3,900 億円といたしました。

鉄鋼事業につきましては、海外市況の軟化や自動車の減産長期化など、足元の鋼材需要が一時的に緩和している状況を踏まえ、合理化生産を実施しており、それによる生産量減の影響はあるものの、価格改善活動の成果とグループ会社収益の向上により、通期のセグメント利益は 230 億円の増益を見込んでおります。

商社事業も、主に米州を中心とした海外グループ会社における増益基調の継続により、通期のセグメント利益は 80 億円の増益を見込んでおります。

また、本日、JFEグループにおけるCO₂排出量削減目標の見直しを公表いたしました。具体的には、鉄鋼事業の2030年度のCO₂排出量削減目標につきまして、カーボンニュートラルに向けた取り組みや外部環境の整備が進展したことを踏まえ、2013年度比で20%以上削減するとしていた目標を上方修正し、2013年度比で30%以上の削減を目標とすることを決定いたしました。CO₂排出量削減と事業を通じた社会全体のCO₂排出削減への貢献を両輪として、グループ全体で引き続き、気候変動問題への解決に向けた取り組みを強力に推進してまいります。

それでは、詳細につきまして、専務執行役員の田中よりご説明申し上げます。よろしく願いいたします。

- JFEグループ 2021年度 第3四半期決算
- JFEグループ 2021年度 業績見通し
- 配当について
- 事業会社別 業績の状況
- トピックス（ESG課題への取り組み等）

本資料は、金融商品取引法上のディスクロージャー資料ではなく、その情報の正確性、完全性を保証するものではありません。また、提示された予測等は説明会の時点で入手された情報に基づくものであり、不確定要素を含んでおります。従いまして、本資料のみに依拠して投資判断されますこと
はお控え下さいますようお願い致します。本資料利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。 2

田中：田中でございます。

それでは、本日弊社のホームページに掲載いたしましたインベスターズ・ミーティング資料に沿い
ましてご説明をいたします。

本日の内容、目次です。



原料価格高騰によるコストの上昇がある一方で、**堅調な鋼材需要と鋼材市況、販売価格改善の取り組み**等により、鉄鋼事業を中心に**収益は大幅に回復**

(億円)	2020年度 (実績)		2021年度 (実績)		増減 4-12月累計
	10-12月	4-12月累計	10-12月	4-12月累計	
売上収益	8,261	23,184	11,544	30,973	7,789
事業利益	531	▲611	1,239	3,228	3,839
金融損益	▲30	▲94	▲29	▲85	9
セグメント利益	501	▲706	1,210	3,142	3,848
個別開示項目	-	-	▲104	▲104	▲104
税引前利益	501	▲706	1,106	3,038	3,744
税金費用・非支配持分 帰属当期利益	▲140	9	▲283	▲807	▲816
親会社の所有者に帰属 する当期利益	360	▲696	822	2,230	2,926

事業利益：税引前利益から金融損益及び金額に重要性のある一過性の項目を除いたもの
セグメント利益：事業利益に金融損益を含めたもの

4

まず、JFEグループの2021年度第3四半期決算です。

2021年度の4月から12月実績の累計で、売上収益が3兆973億円、事業利益が3,228億円、セグメント利益合計で3,142億円、当期利益が2,230億円という実績です。

今回の実績において、表の中ほどの個別開示項目で、104億円の損失を計上しております。内容は、減損損失および関係会社整理損失です。

表の左側に昨年度の実績を並べておりますけれども、昨年度は損益項目が全て赤字ですので、大幅な改善です。



2021年度 第3四半期決算概要 セグメント別

JFEホールディングス

JFE

(億円)	2020年度 (実績)		2021年度 (実績)		増減 4-12月累計
	10-12月	4-12月累計	10-12月	4-12月累計	
売上収益					
鉄鋼事業	5,802	16,075	8,328	22,432	6,357
エンジニアリング事業	1,292	3,512	1,298	3,591	79
商社事業	2,249	6,766	3,293	8,737	1,971
調整額	▲1,082	▲3,169	▲1,375	▲3,786	▲617
合計	8,261	23,184	11,544	30,973	7,789
事業利益 (A)	531	▲611	1,239	3,228	3,839
金融損益 (B)	▲30	▲94	▲29	▲85	9
セグメント利益					
鉄鋼事業	343	▲1,019	935	2,520	3,539
エンジニアリング事業	109	196	102	213	17
商社事業	65	137	162	419	282
調整額	▲16	▲21	10	▲10	11
合計 (A+B)	501	▲706	1,210	3,142	3,848

5

次に、これをセグメント別に展開したものです。

売上収益について、鉄鋼および商社事業については、販売価格の上昇、それから需要回復による販売数量の増で、大幅に売上収益が増えております。

セグメント利益は、鉄鋼セグメントで2,520億円、エンジニアリングで213億円、商社で419億円ということで、鉄鋼事業の大幅な回復があり、併せてエンジニアリング事業も、この第3四半期までで200億円を超えております。さらに、商社事業については400億円を超えたということで、各セグメントともに前年に対して収益が大幅に改善しております。



2021年度 業績見通し（対前回）

JFEホールディングス

JFE

- 鉄鋼事業については、生産量減による影響はあるものの、鋼材価格改善の取り組みの成果や、国内外のグループ会社収益向上等を見込み、**前回公表から収益好転（セグメント利益3,030億円）**を想定
- グループ全体の事業利益は、鉄鋼・商社事業の増益を踏まえ、**前回公表比+300億円好転**の見通し

(億円)	前回見通し (11/5) 年間	今回見通し			増減 年間
		上期実績	下期見通し	年間	
売上収益	43,400	19,429	24,271	43,700	300
事業利益	3,600	1,988	1,912	3,900	300
金融損益	▲100	▲56	▲44	▲100	0
セグメント利益	3,500	1,932	1,868	3,800	300
個別開示項目	—	—	▲120	▲120	▲120
税引前利益	3,500	1,932	1,748	3,680	180
税金費用・ 非支配持分帰属当期利益	▲1,000	▲524	▲456	▲980	20
親会社の所有者に帰属する 当期利益	2,500	1,407	1,293	2,700	200

7

続きまして、2021年度の業績見通しについてです。

まず、前回11月の発表の業績見通しとの比較ということで表をつけております。

売上収益につきましては4兆3,700億円で、300億円の増収を見込んでおります。事業利益は3,900億円で、前回に対して300億円の増益、セグメント利益も3,800億円ですので、300億円、同額の増益でございます。それから、当期利益は2,700億円で、200億円の増益という今回の見通しです。

これをセグメント別に展開したものが次のページです。



2021年度 業績見通し（対前回） セグメント別

JFEホールディングス

JFE

(億円)	前回見通し (11/5) 年間	今回見通し			増減 年間
		上期実績	下期見通し	年間	
売上収益					
鉄鋼事業	31,900	14,104	17,996	32,100	200
エンジニアリング事業	5,200	2,292	2,808	5,100	▲100
商社事業	12,100	5,444	6,656	12,100	0
調整額	▲5,800	▲2,411	▲3,189	▲5,600	200
合計	43,400	19,429	24,271	43,700	300
事業利益 (A)	3,600	1,988	1,912	3,900	300
金融損益 (B)	▲100	▲56	▲44	▲100	0
セグメント利益					
鉄鋼事業	2,800	1,585	1,445	3,030	230
エンジニアリング事業	250	111	139	250	0
商社事業	450	256	274	530	80
調整額	0	▲20	10	▲10	▲10
合計 (A+B)	3,500	1,932	1,868	3,800	300

8

売上収益については、ご覧のとおりの内訳です。

セグメント利益については、鉄鋼事業で3,030億円の見通しで、前回見通しと比較いたしますと230億円増益を見込んでおります。エンジニアリング事業については250億円で、前回見通しと同様ですが、商社事業については530億円で、前回見通しに対してさらに80億円増益を見込んで、合計で300億円の増益という内容です。



2021年度 業績見通し（対前年度）

JFEホールディングス

JFE

原料価格高騰によるコスト上昇があるものの、
鋼材需要回復や鋼材市況の上昇、販売価格改善の取り組みの成果等により、
通期の事業利益は3,900億円（前年度比+4,029億円）の見通し

(億円)	2020年度 実績 年間	2021年度見通し			増減 年間
		上期実績	下期見通し	年間	
売上収益	32,272	19,429	24,271	43,700	11,428
事業利益	▲129	1,988	1,912	3,900	4,029
金融損益	▲124	▲56	▲44	▲100	24
セグメント利益	▲254	1,932	1,868	3,800	4,054
個別開示項目	204	—	▲120	▲120	▲324
税引前利益	▲49	1,932	1,748	3,680	3,729
税金費用・非支配持分帰属当期利益	▲169	▲524	▲456	▲980	▲811
親会社の所有者に帰属する当期利益	▲218	1,407	1,293	2,700	2,918

9

次の表は、前年度との比較です。

今年度の数値は先ほどと同じ数値です。20年度、昨年の実績はご覧のとおり赤字ですので、第3四半期の累積でのご説明と同様に大幅な改善を見込んでおります。



2021年度 業績見通し（対前年度） セグメント別

JFE

(億円)	2020年度 実績 年間	2021年度見通し			増減 年間
		上期実績	下期見通し	年間	
売上収益					
鉄鋼事業	22,552	14,104	17,996	32,100	9,548
エンジニアリング事業	4,857	2,292	2,808	5,100	243
商社事業	9,325	5,444	6,656	12,100	2,775
調整額	▲4,461	▲2,411	▲3,189	▲5,600	▲1,139
合計	32,272	19,429	24,271	43,700	11,428
事業利益 (A)	▲129	1,988	1,912	3,900	4,029
金融損益 (B)	▲124	▲56	▲44	▲100	24
セグメント利益					
鉄鋼事業	▲654	1,585	1,445	3,030	3,684
エンジニアリング事業	240	111	139	250	10
商社事業	200	256	274	530	330
調整額	▲41	▲20	10	▲10	31
合計 (A+B)	▲254	1,932	1,868	3,800	4,054

10

こちらのページはセグメント別に展開したスライドですが、これも第3四半期決算についての説明と同様ですので、説明は割愛させていただきます。

2021年度末のDebt/EBITDA倍率は、7次中期目標レベルに到達（3.0倍）

連結キャッシュフロー見通し

(億円)

Cash-in	Cash-out
当期利益 2,700	設備投資 および投融資 3,500
減価償却費 および償却費 2,500	配当金支払 400 運転収支他 2,650
資産圧縮 450	
有利子負債 900	

Debt/EBITDA倍率の推移



11 ページは、連結キャッシュフロー、Debt/EBITDA 倍率見通しであります。

右下に、2021年度の有利子負債残高の見通しを入れております。1兆9,000億円ということで、左側に2020年度の実績がございますが、900億円強、有利子負債が増えるという今回の見通しです。

次にキャッシュフローですが、左に連結キャッシュフロー見通しの表をつけております。Cash-in側では、当期利益2,700億円、償却2,500億円、資産圧縮450億円がある一方、Cash-out側で言いますと、設備投資3,500億円、配当金支払400億円に加えて、今回、有利子負債が増える最大の要因はこの運転収支他です。

原料価格等が上がっていることに伴いまして、運転資金もかなり増加しているということで、借入金の増につながっておりますが、右のグラフにありますように収益も上がっておりますので、いわゆるDebt/EBITDA倍率という意味では、3倍ということで、7次中期の目標レベルに到達している状況です。



当期の期末配当については、
1株当たり80円（年間140円）とする案を
株主総会にお諮りする方針といたしました。

13

次に、配当についてです。

配当につきましては、当期の期末配当を、1株当たり80円、年間で140円とする案とさせていただきます。配当につきましては、中期計画の中でも公表しておりますとおり、連結ベースの配当性向30%程度を基本ということで考えております。今回の当期利益の見通し2,700億円、配当性向30%というところで、年間の配当を140円、中間で60円配当しておりますので、期末は80円ということです。



2021年度 第3四半期決算

JFEスチール

	単位	2020年度					2021年度		
		4-6月	7-9月	10-12月	1-3月	年間	4-6月	7-9月	10-12月
売上収益	億円	5,087	5,186	5,802	6,476	22,552	6,385	7,719	8,328
セグメント利益	億円	▲578	▲784	343	364	▲654	697	888	935
棚卸資産 評価差等除*	億円	▲348	▲334	143	224	▲314	257	428	▲35
単独 粗鋼生産量	万t	479	538	627	632	2,276	625	645	649
連結 粗鋼生産量	万t	509	568	659	660	2,396	659	680	685
単独 鋼材出荷量	万t	459	475	542	572	2,049	526	556	563
鋼材輸出比率 単独・金額ベース	%	44.2	40.2	40.3	44.3	42.3	43.2	49.3	45.9
鋼材平均価格	千円 /t	75.3	71.0	73.4	78.8	74.8	87.6	101.0	107.6
為替レート	円/ドル	107.7	105.9	104.8	104.7	105.8	109.8	110.0	113.1
期末為替レート	円/ドル	107.7	105.8	103.5	110.7	110.7	110.6	111.9	115.0

*セグメント利益から、棚卸資産評価差、原料キャリーオーバー、為替換算差を除いた損益

15

それでは、次に事業セグメントごとの内容についてご説明します。

まずスチールですが、第3四半期の決算までの状況です。

四半期ごとに数値を並べております。今回2021年度の10-12月期であります。セグメント利益が935億円という実績です。一方で、その下に棚卸資産評価差等除という数字がありますが、第3四半期はかなり原料コストも上がったということもありまして、いわゆる棚卸資産評価差が多額に計上されております。それを除いたところでは、10-12月の断面ではマイナス35億円になっております。

単独の粗鋼生産量は649万トンです。それから下から三つ目にありますが、鋼材の平均価格は第3四半期10万7,600円という実績でして、前四半期、7-9月と比べますと6,600円の上昇です。1年前、前年同期と比較いたしますと、1年前が7万3,400円ですので、約3万4,000円、価格が上昇しているということです。



2020年度4-12月

JFEスチール

⇒ 2021年度4-12月 セグメント利益 +3,539億円内訳

販売価格の改善や粗鋼生産量の増加に加え、国内外グループ会社収益の改善により、3,539億円の改善

(億円)

JFEスチール	2020年度 4-12月	2021年度				増減
		4-6月	7-9月	10-12月	4-12月	
セグメント利益	▲1,019	697	888	935	2,520	+3,539

1. コスト	+230	・ 設備投資効果 等
2. 数量・構成	+560	・ 鋼材需要回復による数量増 (粗鋼量1,644万t⇒1,920万t)
3. 販価・原料	+170	(≒鋼材トン当たり：1,000円) ・ 主原料価格は上昇するも、 国内外の需給・市況を背景に、スプレッドは改善
4. 棚卸資産評価差等	+2,350	・ 棚卸資産評価差+1,640 (▲410→+1,230) ・ 原料キャリアオーバー影響+620 (▲20→+600) ・ 為替換算差+90(▲50→+40)
5. その他	+229	・ 国内外グループ会社収益の改善 ・ 金属・スクラップ等の物価上昇 等

16

第3四半期までの前年とのセグメント利益の増減の内訳です。

ご覧のとおり、昨年が1,000億円あまりの赤字でありましたので、増減で申し上げますと3,539億円の増益になります。内訳はご覧のとおりです。

コストが230億円のプラス、数量につきましては粗鋼の生産が276万トン、昨年と比較いたしますと増えておりますので、560億円のプラスです。

スプレッドは170億円のプラスですけれども、主原料価格がかなり大きく、鉄鉱石、原料炭とも上がっておりますが、一方で海外市況も継続して良かったことに加えて、国内の販売価格の改善に取り組んだことで、スプレッドで170億円のプラスとなっております。

一方で、棚卸資産評価差について、原料価格の上昇もございまして、2,350億円のプラスです。内訳は右に記載のとおりですけれども、大きくプラスに寄与しております。さらに、その他のところでは229億円のプラスですが、大きなプラスとマイナスがございまして。国内外のグループ会社の収益も大幅に改善しており、1,100億円程度の収益の改善がある一方で、金属・スクラップ等の物

値上昇が 900 億円ほどのマイナス要因ということで、その他のところで絞っている形になっております。



足元の事業環境認識（国内）

JFEスチール

JFE

- 半導体不足や供給制約による自動車減産等により鋼材需要は一時的に弱含むも、回復基調は継続
- 4Qの国内普通鋼鋼材消費見通しは前年同期比+4.2%、前期比+2.8%と増加する見通し
- 21年度自動車生産台数は800万台程度（対前回見通し▲20万台）と下方修正するが、活動水準は徐々に回復
- オミクロン株の感染拡大が鋼材需要に与える影響については、引き続き注視が必要



分野	見通し概況
自動車	<ul style="list-style-type: none"> 半導体不足や部品供給制約により生産活動の低下が継続 供給制約が徐々に緩和されると想定するが、正常化は来年度以降と想定 年間生産台数は、800万台程度を想定
造船	<ul style="list-style-type: none"> 新造船受注は世界経済の回復に伴う荷動・用船市況の上昇等を背景に堅調に推移、手持ち工事量も安定水準を維持 一方で、日系造船会社については、資機材費の高騰により、新造船受注へ慎重な姿勢も見られる
製鉄業 その他	<ul style="list-style-type: none"> インフラ・住宅投資等の好調を受け建機需要は堅調に推移 産業機械も、インフラやEV等への設備投資など内外需とも堅調に推移
土木	<ul style="list-style-type: none"> 公共分野は国土強靱化対策に支えられ、底堅く推移 1-3月は季節要因もあり鋼材需要は前期比で減少する見通しだが、鋼材需要全体は前年を上回る見込み
建築	<ul style="list-style-type: none"> 再開発案件など、大型案件や物流倉庫は堅調に推移 コロナ禍で停滞していた店舗・事務所関連の動きだしも見られる

17

それでは、足元の事業環境認識ということで、まず国内からです。

総体的に申し上げますと、半導体不足、部品供給制約による自動車減産等によって、鋼材需要は一時的な弱含みがありますけれども、大きな流れとしては回復基調が継続しているの見込んでおります。

次に第4四半期の国内普通鋼材消費見通しですが、下の左側にグラフもございますけれども、前年同期と比べまして4.2%、それから直前、前の期と比べても2.8%の増加ということで、第4四半期の需要、消費見通しも増えるの見込んでおります。

続いて分野別であります。右側に並べておりますが、まず自動車に関しては、半導体不足、部品供給制約による生産活動の低下がみられます。正常化は来年度以降と想定されるということで、年間

の生産台数は 800 万台程度を想定しています。前回 820 万台程度と見ておりましたので、20 万台の下方修正です。

造船ですけれども、新造船受注が世界経済の回復に伴って非常に堅調に推移しております。手持ち工事量も安定水準を維持しています。ただ一方で、日系造船会社は、資機材費の高騰によって慎重な姿勢も見られますので、その点を注視していく必要があると思っております。

その他製造業ですが、建機については非常に好調で堅調に推移しておりますし、産業機械についても、内外ともに堅調に推移しております。

建設分野ですが、土木に関しても底堅く推移しており、鋼材需要全体は前年を上回る見込みです。建築についても、もともと大型案件、物流倉庫は堅調だと以前より申し上げておりましたが、コロナウイルス感染拡大影響で少し停滞していた店舗・事務所などの中小型の物件も、少しずつ動き出してきているかなと思っております。

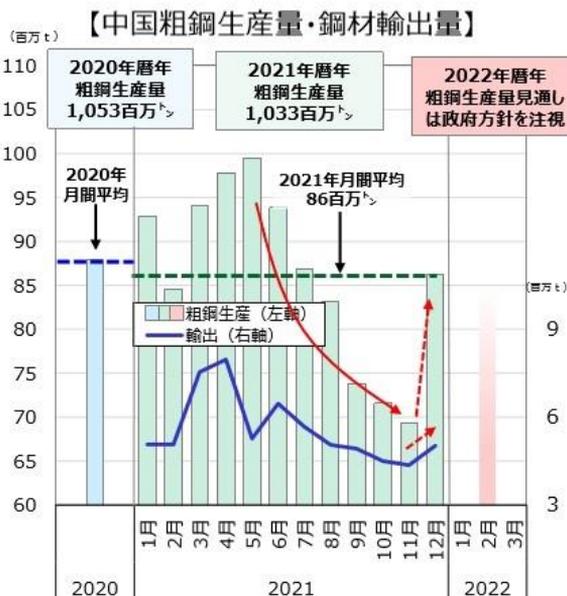


足元の事業環境認識（海外）

JFEスチール

JFE

- 世界経済の回復に伴い、**鋼材需要は総じて回復基調が継続**する見込みだが、自動車分野の減産長期化、コロナ拡大による建築需要停滞、また中国経済の鈍化を受け、**鋼材需給は一時的に緩和し、市況は下落**
- 今後、**供給制約の緩和による自動車生産の回復、コロナ対策の進展、中国経済の復調により、再度需給が引き締まり、市況は回復する**と想定



【各国情勢・動向の見通し】

要素	見通し概況
中国ミルの動向	<ul style="list-style-type: none"> • 足元、金融引き締め政策によるインフラ投資の減少や、コロナ対策による行動制限により内需が停滞。12月は鋼材輸出が増加 • 引き続き環境対策に重点をおき、粗鋼生産・鋼材輸出抑制方針は継続されると想定 • 中国経済の復調に伴い、中国国内の需給はタイト化すると想定しているが、中国政府の方針・政策を注視
インドミルの動向	<ul style="list-style-type: none"> • 国内のコロナ感染はピークアウトしたものの、自動車減産等の影響を受け、需要の回復は力強さに欠ける • 輸出については、欧州での鋼材需要減少が長期化した場合、東南アジアにむかう可能性もあり
ロシアミルの動向	<ul style="list-style-type: none"> • 主要な販売先である欧州・トルコでのコロナ再拡大や自動車減産が長期化した場合、アジアを含む世界各地への価格攻勢、数量確保に動く可能性があり、注視が必要
東南アジアの状況	<ul style="list-style-type: none"> • コロナ拡大が建築業等に影響。域内内需は低迷 • インドミル等による数量確保姿勢もあり、需給は一時的に緩和し、鋼材市況は足元軟化 • 今後、自動車生産の回復、コロナ対策の進展に伴い、需給は再びタイトに向かい、市況回復を想定

一方で、海外です。

海外も、総括的に言えば、世界経済の回復に伴って回復基調継続と見てはおりますが、自動車分野は世界的に減産が長期化しているということ、それからコロナウイルス感染が再拡大しているということで、建築需要の停滞、また中国の経済等々の問題もあり、鋼材需給は一時的に緩和して、市況が少々下がっている状況と認識しております。

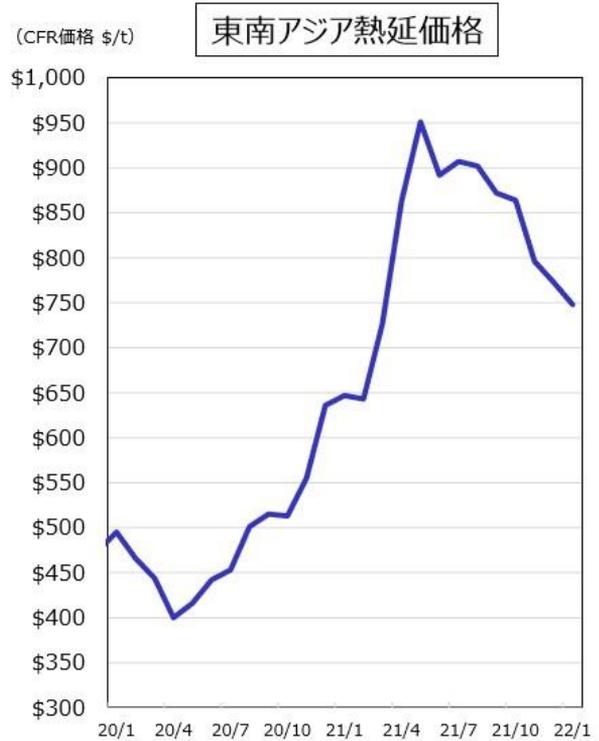
各国の情勢について右に表をつけておりますが、中国については、金融引き締め政策によってインフラ投資が減っている、またコロナの影響等々で内需が停滞しております。一方で、12月は、歴年の粗鋼生産が前年を下回るというところがほぼ見えてきたということで、非常に一時的ではあるものの生産が駆け込み的に増えて、かつ鋼材輸出も増えたという状況にあります。ただ、政府の政策は、今年に入ってから基本的には変わらないと見ております。あとは、今後の中国の経済の復調がどうかという点です。鋼材需給がタイト化していくのではないかと考えていますが、今後注視していく必要があると思っています。

インドも自動車の減産が引き続き続いているということで、需要の回復の力強さには欠けています。鋼材輸出についても、ヨーロッパでの鋼材需要減少が長期化している場合に、東南アジアに向かう可能性もあると思っています。

同様にロシアについても、主要な販売先であるヨーロッパやトルコ等での需要が停滞した場合に、アジアを含む世界各地への数量確保への動きがでてくる可能性があると思っています。

東南アジアは、コロナウイルス感染の拡大によって建築需要が影響を受け、需要が低迷しております。インドからの輸出等もあって、足元の鋼材市況は非常に軟化をしています。ただ、今後については、自動車生産の回復、それからコロナウイルス感染対策の進展等々によって、市況が底を打つ形で回復してくるのではないかと見ています。

業績見通しの前提（原料市況、鋼材市況）



19

原料物価等の状況です。

まず左上の鉄鉱石ですが、ご覧のとおり、昨年夏以降、中国の減産に伴って価格がだいぶ下がってきたわけですが、ここへ来て中国がまた12月に増産したということ、また一部ブラジルでの豪雨影響等の懸念なども相まって、価格が再び上昇に転じている状況です。

下のグラフの原料炭は、昨年の夏から秋にかけての高いレベルから、いったん中国の粗鋼減や中国国内の原料炭の需給改善等によって下がってきておりましたが、ここへきて、中国の粗鋼回復やインドネシアの石炭の輸出禁止措置などの影響もあって、再び史上最高値をつけるような状況になっています。

一方で、東南アジアの熱延価格については、じりじりと下がってきてはいるのですが、今のところまだ750ドルレベルにて、この水準で底を打つと思っています。



粗鋼生産量見通し

- 21年度の単独粗鋼生産量は、**2,600万トン程度**を見込む（対前回見通し▲50万トン減）
 - **倉敷第4高炉の早期立ち上げを実行し、順調に稼働**
 - 足元の鋼材需要が一時的に緩和している状況を踏まえ、**価格優先の合理化生産を志向**

メタルスプレッド

- **国内輸出トータルのスプレッドは前回見通し比+70億円の改善**を見込む
主原料価格は高値圏が継続、海外市況の軟化も見られるが、国内販価の改善を強力に推進し、スプレッドは改善を織り込む
 - **原料炭価格**
足元市況は過熱すぎていると見ているが、収束に一定程度時間を要すると見ており、**当面は高値圏継続**と想定
 - **販売価格** 国内：主原料コストの販売価格への早期反映の取り組みが想定以上に広く定着したため、**更なる販売価格改善を業績見通しに反映**
輸出：海外市況の軟化に伴い、**一定の市況調整**を見込む

金属価格

- 需給のタイト化に加え、各国の電力価格上昇等を背景に、引き続き**歴史的な高値圏で推移**

次に当社の業績見通しの前提でございます。

まず粗鋼生産に関しましては2,600万トン程度で、前回に対して50万トンほどの減を見ています。倉敷第4高炉は、12月の立ち上げということで、早期の立ち上げを実行し、順調に稼働しております。ただ一方で、足元の鋼材需要が一時的に緩和している状況を踏まえて、価格優先の合理化生産を志向するというので、無理に増産をかけないということで考えています。

一方、メタルスプレッドであります。国輸トータルのスプレッドは、前回対比70億円の改善と見ています。その下にありますように、すでに今年度に関しましては、鉄鉱石の価格については第4四半期まで決まっております。あと、変動要素とすると第4四半期の原料炭価格ということになるのですが、先ほど見ましたように、足元では非常に市況が高くなっています。これは少し加熱しすぎと見てはいますけれども、ただ、価格が収束するのも一定程度時間を要すると考えられますので、当面は今のレベルの高値圏継続ということで、第4四半期価格も決まってくることを考えております。

それから販売価格ですが、国内については、以前よりご説明差し上げており、主原料コストの販売価格への早期反映等々の取り組みを強力に進めてきております。今回も前回の見通しに対し

て、特に国内の販売価格改善がさらに進展したということです。その下にあります輸出は、海外市況の軟化に伴って、市況調整ということで、前回対比、販売価格という意味ではマイナス方向にあるのですが、ひとえに国内の価格改善というところで、トータルのスプレッドは前回に対してもプラスの改善をできる見込みです。

一方、一番下にございますように、金属価格については引き続き歴史的な高値圏で推移している状況であります。



JFEスチール 2021年度 業績見通し

JFEスチール

	単位	2020年度 年間 実績	2021年度					2021年度 年間 見通し	2021年度 年間 (前回) 見通し
			上期 実績	下期		年間 見通し			
				10-12月 実績	1-3月 見通し		見通し		
売上収益	億円	22,552	14,104	8,328	9,668	17,996	32,100	31,900	
セグメント利益	億円	▲654	1,585	935	510	1,445	3,030	2,800	
棚卸資産評価差等除き*	億円	▲314	685	▲35	620	585	1,270	1,190	
単独粗鋼生産量	万t	2,276	1,270	649	680 程度	1,330 程度	2,600 程度	2,650 程度	
連結粗鋼生産量	万t	2,396	1,339	685	715 程度	1,400 程度	2,740 程度		
単独鋼材出荷量	万t	2,049	1,083	563	624 程度	1,187 程度	2,270 程度		
鋼材輸出比率 (単独・金額ベース)	%	42.3	46.5	45.9	44	45	46		
鋼材平均価格	千円/t	74.8	94.5	107.6	115 程度	111 程度	103 程度		
為替レート	円/ドル	105.8	109.9	113.1	115	114	112	110 程度	

*セグメント利益から、棚卸資産評価差、原料キャリアオーバー、為替換算差を除いた損益

21

スチールの業績見通しです。

最初に申し上げましたが、セグメント利益 3,030 億円、粗鋼生産量 2,600 万トンという前提の数値でございます。



2021年度 セグメント利益 対前回見通し +230億円内訳

主原料コストの早期反映を含む販売価格改善および、国内外グループ会社収益の向上により、対前回で改善を見込む

(億円)

JFEスチール	2021年度 前回見通し	2021年度 今回見通し	増減 対前回
セグメント利益	2,800	3,030	+230
1. コスト	±0		
2. 数量・構成	▲90	・粗鋼量 2,650万t程度→2,600万t程度	
3. 販価・原料	+70	(≒鋼材トあたり：+300円) ・主原料コストの早期反映を含む販価改善により、スプレッド改善	
4. 棚卸資産評価差等	+150	・棚卸資産評価差+130 (+1,380→+1,510) ・原料キャリアオーバー影響▲10 (+220→+210) ・為替換算差+30(+10→+40)	
5. その他	+100	・国内外グループ会社収益の向上 ・金属類の物価上昇 等	

22

前回見通しとの差異 230 億円のプラスの内訳です。

数量については、今申し上げましたように、50万トンの減産でマイナス90億円、スプレッドが70億円のプラス、棚卸資産評価差等の150億円のプラスと、その他のところでは、金属類の物価上昇でさらに140億円ほどのマイナスがあるのですが、それを上回る国内外のグループ会社の収益の向上がございまして、その他のところでもプラス100億円ということで、合計して230億円の増益がございまして。



2021年度 セグメント利益 対前年度 +3,684億円内訳

JFE

- 新型コロナウイルス影響を大きく受けた2020年度からは需給環境が大幅に回復
- 主原料コストの販売価格への早期反映、輸出を中心とした市況好転・数量増、国内外のグループ会社収益の改善により、対前年度で大幅な改善を見込む

(億円)

JFEスチール	2020年度 実績	2021年度 見通し	増減 対前年度
セグメント利益	▲654	3,030	+3,684
1. コスト	+300	<ul style="list-style-type: none"> • 設備投資効果 • 安価原料使用拡大 等 	
2. 数量・構成	+630	<ul style="list-style-type: none"> • 鋼材需要回復による数量増 (粗鋼量 2,276⇒2,600万t程度) 	
3. 販価・原料	+930	<ul style="list-style-type: none"> (≒鋼材トンあたり：+4,100円) • 主原料市況は大幅に上昇する見通しも、主原料コストの早期反映や、需給・市況環境を背景とした販売価格上昇によりスプレッド改善 	
4. 棚卸資産評価差等	+2,100	<ul style="list-style-type: none"> • 棚卸資産評価差+1,880 (▲370→+1,510) • 原料キャリーオーバー影響+180 (+30→+210) • 為替換算差+40(±0→+40) 	
5. その他	▲276	<ul style="list-style-type: none"> • 国内外グループ会社収益の改善 • 金属・スクラップ等の物価上昇 等 	

23

次は、前年度との3,684億円の改善の内訳です。

毎回ご説明しているとおりでありますけれども、コストで300億円のプラス、数量・構成で630億円のプラス、それからスプレッドについては930億円のプラスということで、大幅な原料価格のアップはございましたが、それを上回る輸出の価格に加え、国内価格の改善等でスプレッドを改善させております。

棚卸資産評価差等もプラスの2,100億円あります。

その他のところでは、国内外グループ会社の改善もプラス1,200億円ほどございますが、一方で金属スクラップ等の物価上昇も1,300億円程度マイナスがあるといった内訳です。



2021年度上期⇒下期 セグメント利益 ▲140億円内訳

- 下期にかけて粗鋼生産量は増加し、コスト改善が進捗
- 主原料コストの早期反映を含む販価改善によりスプレッドは改善を見込むものの、その他原料の物価上昇を受け、下期損益は上期からの悪化を見込む

(億円)

JFEスチール	2021年度 見通し			増減 2021上→下
	上期 実績	下期 見通し	年間	
セグメント利益	1,585	1,445	3,030	▲140
1. コスト	+150	<ul style="list-style-type: none"> • 設備投資効果 • ソフト改善 等 		
2. 数量・構成	+170	<ul style="list-style-type: none"> • 国内外の経済復調を背景に、緩やかな需要回復を見込む • 倉敷第4高炉の改修工事完了に伴う生産量増 (粗鋼量 1,270万t⇒1,330万t程度) 		
3. 販価・原料	+430	(≒鋼材トンあたり: +3,600円) <ul style="list-style-type: none"> • 主原料物価は上昇も、早期反映を含む販価改善によりスプレッド改善 		
4. 棚卸資産評価差等	▲40	<ul style="list-style-type: none"> • 棚卸資産評価差+330 (+590→+920) • 原料キャリアオーバー影響▲390 (+300→▲90) • 為替換算差+20(+10→+30) 		
5. その他	▲850	<ul style="list-style-type: none"> • 減価償却費・経費 • 金属・スクラップ等の物価上昇 等 		

24

次は、21年度上期下期の対比であります。

140億円、上期と下期で比べると減益になりますけれども、コスト削減150億円のプラスです。数量は、上期1,270万トン、下期1,330万トンの粗鋼ですので、60万トンの増産で170億円のプラスです。

スプレッドに関しては、430億円のプラスです。原料物価は、上期下期でいうとやはり大きく上がるのですが、販売価格で、特に国内の販売価格改善が大きく寄与するという事で、スプレッドの改善を見込んでいます。

棚卸資産評価差等については、ご覧のとおりです。

その他については、期末特有というところもあるのですが、減価償却費や経費が下期にかけて増える影響で、350億円ほどのマイナス影響があります。これに加えて、金属・スクラップ等の物価上昇、これも450億円ほど上期下期で段差があるということで、その他で850億円のマイナスを見込んでいます。



2021年度 業績見通し

JFE

足元の事業環境/損益概況

- ▶ 国内の事業環境は**環境・エネルギー関連分野**および**インフラ分野**ともに**堅調に推移**
- ▶ 海外については、**欧州**の環境関連分野は**引き続き堅調**に推移
アジア他の地域では一部新型コロナウイルスの影響による**出件時期ズレ**あり
- ▶ 企業買収による増収等により、**セグメント利益は前年度を上回る見通し**で引き続き安定的な収益を確保

業績見通し

(億円)	20年度実績		21年度見通し (今回)		増減 (対前年度)		21年度見通し (前回)	
	下期	年間	下期	年間	下期	年間	下期	年間
受注高	2,022	5,011	2,777	5,300	755	289	2,977	5,500
売上収益	2,637	4,857	2,808	5,100	171	243	2,908	5,200
セグメント利益	153	240	139	250	▲14	10	139	250

対前年度

- <年間>
- ・受注高 +289 企業買収、カーボンニュートラル分野の大型案件の受注増
 - ・売上収益 +243 前年度受注拡大、企業買収による増加
 - ・セグメント利益 +10 売上収益増により増加

対前回見通し

- <下期>
- ・受注高 ▲200 海外案件の出件時期ズレ
 - ・売上収益 ▲100 出件時期変更等による出来高減少
(売上減によるセグメント利益減はコストダウンによりカバー)

26

次に、エンジニアリング事業です。

最初に申し上げましたように、エンジニアリングについては、セグメント利益は250億円ということで、前回見通しと同様ではあるのですが、受注高で5,300億円ということで、前回見通しに対して200億円のマイナス、売上収益も5,100億円ということで、100億円のマイナスという見通しです。

全体の環境が大きく変わっているということではないのですが、受注に関していうと、一部海外案件がやはりコロナウイルス感染の影響等々もあって出件のずれがございまして、受注が来年度にずれそうだということで、200億円のマイナス分を今回反映しております。

売上についても同様に、出件時期が少しずつずれてくることによって今年度の出来高が減ってくるということで、100億円程度、売上も減少を見込んでおりますが、一方でコスト削減等の積み増しによって、利益に関しては250億円をキープするという内容です。



2021年度 業績見通し



足元の事業環境/損益概況

- 国内は、半導体不足等による自動車の生産台数減の影響が見受けられるが、造船需要の回復や鋼材全般の市況上昇を受け、**好調を維持**
- 海外では、鋼材市況がピークアウトしつつあるものの、**北米グループ会社を中心に増益基調が継続**する見込み
- 通期では**セグメント利益530億円(対前回見通し比+80億円、対前年度比+330億円)**の見通し

業績見通し

(億円)	20年度実績		21年度見通し(今回)		増減(対前年度)		21年度見通し(前回)	
	下期	年間	下期	年間	下期	年間	下期	年間
売上収益	4,807	9,325	6,655	12,100	1,848	2,775	6,656	12,100
セグメント利益	128	200	274	530	146	330	194	450

対前年度

- ・昨年度大幅に落ち込んだ需要の回復に加え、国内外の鋼材市況が引き続き堅調に推移したことから、増益の見通し。

対前回見通し

- ・国内外ともに堅調であるが、特に北米グループ会社が引き続き増益基調を継続。

次に、商社事業です。

商社については、鉄鋼と同じような事業の環境ではあるのですが、今回 80 億円の増益を見込んでいます。ひとえに、北米のグループ会社を中心に増益基調が継続しているということです。

前回見通しでは、下期は鋼材市況が下がって、収益的にもスローダウンするということを織り込んでおりましたが、現時点ではかなり高レベルで維持できているということでの増益修正です。

業績については以上でございます。

- **2030年度のCO₂排出量削減目標を30%以上削減(2013年度比)に設定**

CO₂排出量削減に向けた当社公表

2020年9月
鉄鋼事業におけるCO₂排出量について、
個社目標を国内鉄鋼他社に先駆けて公表

▼

2021年5月
「JFEグループ環境経営ビジョン2050」を策定
第7次中期経営計画の発表

▼

今回
**2030年度の
鉄鋼事業CO₂排出量削減目標を改定**

鉄鋼事業CO₂排出量削減目標
※削減目標起点は全て2013年度

2030年度	20%以上
2024年度末	18%
2050年度	カーボン ニュートラル
2030年度	30%以上

30

トピックスとして、冒頭、副社長の寺畑からもございましたが、CO₂の排出削減目標について改めて設定いたしましたので、ご説明をいたします。

2030年度のCO₂排出量削減目標を30%以上ということで、設定を改めていたしました。このページは、これまでの経緯であります。2020年9月において、個社目標という意味では国内鉄鋼他社に先駆けて、2030年に20%以上という公表をいたしました。

さらに、昨年、中期計画の公表と同時に「JFEグループ経営環境ビジョン2050」を策定して、2024年度末に18%、2050年度にカーボンニュートラルと公表いたしました。中期計画の中でも、改めて30年度の目標については検討していくと申し上げましたが、今回、鉄鋼事業のCO₂排出削減目標を30%以上と改定をしたものです。

<削減目標見直しの背景>

- 当社の**カーボンニュートラルに向けた取り組みが進展した**ことに加え、**鉄鋼事業を取り巻く外部環境整備が進んだ**ことを考慮、**目標見直し**

取り組み

- ✓ **迅速かつ効率的な推進体制の構築**
(専門組織の新設、「カーボンニュートラル推進会議」の設置)
- ✓ **既存技術の適用拡大や新規削減アイテムの積み上げ**
(構造改革による高効率化や省エネ、DXによる効率化、等)
- ➡ **電気炉を含む新プロセス導入も検討**

外部環境

- ✓ **NEDO グリーンイノベーション基金事業の採択**
- ✓ 第6次エネルギー基本計画が閣議決定され、**購入電力の排出係数の改善**が見込まれる

- 研究開発の進捗や具体的な設備投資については都度公表予定

31

目標見直しの背景でございますが、当社のカーボンニュートラルに向けた取り組みが進展したことに加えて、外部環境整備が進んだことにあります。

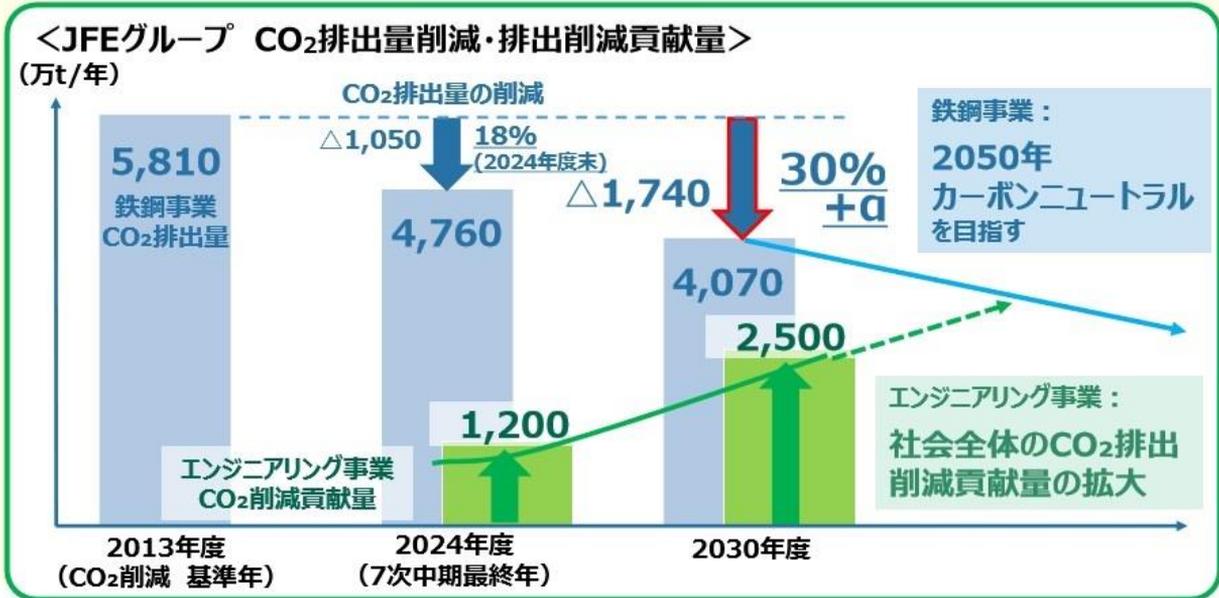
具体的には、取り組みとしては、昨年の夏以降、専門組織を新設してまいりました。さらには、カーボンニュートラル推進会議も設置して、迅速かつ効率的な推進体制を構築してきたことと、さらには既存技術の適用拡大や新規削減アイテムの積み上げによってCO₂排出削減量の積み増しができるようになってきたということです。この中には、電気炉を含む新プロセスの導入の検討も含まれます。

外部環境としましては、NEDOのグリーンイノベーション基金事業の採択によってR&Dの加速が期待できることに加えて、政府の第6次エネルギー基本計画も決まって、購入電力の排出係数の改善も見込まれるようになってきました。



JFEグループにおけるCO₂排出量削減目標について

- JFEグループでは、鉄鋼事業のCO₂排出量削減に加え、エンジニアリング事業による**社会全体のCO₂排出削減への貢献**も推進
グループ全体で持続可能な社会の実現に貢献



32

グループのCO₂排出量削減目標であります。

鉄鋼事業の排出量削減目標については、2013年度を基準年としたときに2024年度末で18%、2030年度に30%プラスアルファです。

一方で、エンジニアリング事業は、社会全体のCO₂排出削減への貢献ということで、2024年度で1,200万トン、2030年度で2,500万トン、これは中期で発表した数値そのままですけれども、こういったことを含めて、グループ全体で持続可能な社会の実現に貢献したいと考えております。



当社提案のカーボンニュートラル技術開発項目が グリーンイノベーション基金事業に採択

JFEホールディングス

2022年1月7日 リリース

- 当社独自開発技術「カーボンリサイクル高炉」を含む技術開発項目※が
NEDO グリーンイノベーション基金事業に採択

※JFEスチール(株)、日本製鉄(株)、(株)神戸製鋼所、(一財)金属系材料研究開発センターの共同提案

- 当基金事業で「製鉄プロセスにおける水素活用プロジェクト」を推進、
要素技術開発から小型実験炉建設、実証実験までを支援

グリーンイノベーション基金事業／製鉄プロセスにおける水素活用プロジェクト

予算 : 1,935億円 (4テーマ)

技術開発項目 :

高炉を用いた水素還元技術の開発

- ① 所内水素を活用した水素還元技術等の開発
- ② 外部水素や高炉排ガスに含まれるCO₂を活用した低炭素化技術等の開発

水素だけで低品位の鉄鉱石を還元する直接水素還元技術の開発

- ① 直接水素還元技術の開発
- ② 直接還元鉄を活用した電炉の不純物除去技術開発

33

さきほどお話ししましたが、グリーンイノベーション基金事業に採択されたということです。

当社独自の開発技術であります、カーボンリサイクル高炉を含む技術開発項目が基金に採択されました。この基金によって、製鉄プロセスにおける水素活用プロジェクトを推進します。1,935億円、4テーマであります、この中の「外部水素や高炉排ガスに含まれるCO₂を活用した低炭素化技術等の開発」に、私どものカーボンリサイクル高炉も含まれるという内容です。



2022年1月20日 リリース

- カーボンニュートラルに向けた様々な取り組み推進のため、公募形式による**トランジションボンド(社債)を発行予定**
- 当社の長期戦略や資金使途、管理体制が評価され、本社債は経済産業省の「クライメート・トランジション・ファイナンスモデル事業に係るモデル事例」に**国内製造業で初めて選定**

トランジションボンド概要

発行時期 : 2022年度中

資金使途 :
 ≥ 省エネ・高効率化 (高炉AI・IoT化、スクラップ利用拡大、コークス炉改修等)
 ≥ エコプロダクト製造 (電磁鋼板)
 ≥ 超革新的
 製鉄プロセス開発 (カーボンリサイクル高炉、CCU、水素製鉄、電気炉技術)
 ≥ 再生可能エネルギー (バイオマス・地熱・太陽光発電等)

34

最後に、トランジションボンドについてです。

カーボンニュートラルに向けた様々な取り組み推進のために、公募形式によるトランジションボンド(社債)を発行予定です。経済産業省のクライメート・トランジション・ファイナンスモデル事業に係るモデル事例に応募いたしまして、それが認められております。当社の長期戦略、資金使途、管理体制が評価されてモデル事業に選ばれたもので、これは国内製造業では初めてです。

2022年度中に、トランジションボンドを発行する予定です。資金使途は、ここに記載のとおり、省エネ、エコプロダクト製造、超革新的製鉄プロセス開発、再生可能エネルギー等々に使っていく予定です。

私からは以上です。

質疑応答

司会：それでは、質疑応答に移りたいと思います。

最初の方、お願いいたします。

質問者：3問あります。

1問目は、御社の業績見通しの前提について、前回の11月公表では下期のホットコイルは、10月頃の900ドル以上を前提としていたと思いますが、足元、おそらく御社の販価も800ドルに迫るような水準まで値下がりの方にあると想定しています。そんな中、今回の業績見通しの修正でスプレッドが拡大していることは、輸出の鋼材市況が下がったものに対して、相当国内の販売価格が上がっているように見受けられます。

今回、紐付き価格の改定を相当頑張られた印象を持っているのですが、それに対して、感触と取り組み、今後について教えていただきたいのが1問目です。

2問目は、配当についてです。今回、配当性向は丁度30%で、年間配当140円と、競合他社と並んでいます。一方、競合他社は今年度の配当性向を押さえており、来年度は今年度の配当と段差をつけず、減配を避けたいという方針のようです。

来年度の御社の業績に関して、スプレッド等の条件が変わらなければ、今年度の事業利益のうち1,500億円の在庫評価益が剥落し、事業利益は2,400億円程度になると仮定します。その場合も配当性向30%として減配してしまうのでしょうか。配当方針に従った動きになるのかどうか教えてください。

3点目は、今回、カーボンニュートラルに向けての取り組みについて、2030年度のCO₂排出量削減目標を30%以上と発表されました。2030年頃にCCUやCCUS、あるいはカーボンリサイクル高炉や水素製鉄などといった超革新的技術が確立されているとは思えないため、御社の目標達成のためには、直接還元法+電炉を主な手段とすると推測しました。ある程度、技術的なめどが立ったと先ほど説明していましたが、どういうことなのか、技術の進捗も含めて教えてください。

以上3点です。

JFE：まず1点目の国内の販価の改善につきましては、ご指摘のとおり、第4四半期ではかなりきっちりと手応えを持って価格を上げてきております。ただ、足元でも、合金鉄や諸物価の上昇が大

きくなっております。したがって、今後も着実に価格改善を進めていきたいと考えております。来期に向けては、販価の改善をより一層進めて、利益の上積みはしていきたいと考えております。

2点目の配当でございますが、現中期の配当方針において配当性向30%程度を基本としておりますので、今年度につきましても、配当性向30%とさせていただきたいと考えております。来期以降は、利益の積み上げという形で、配当を増やしていくよう取り組んでいきたいと思っております。

最後に、カーボンニュートラルに向けての、当社の2030年度のCO₂の削減目標の件についてお答えします。今回発表しました、2030年度のCO₂削減排出量削減30%以上という目標は、カーボンリサイクル高炉等といった画期的な新技術を前提にしておりません。前回の公表時点から比較すると既存設備でのCO₂削減技術の適用範囲の拡大や複線的に取り組んでいる技術開発・研究開発の進展を見込んでいます。要素技術開発に関する専門組織を複数新設し、またカーボンニュートラル推進会議を設置し、既存技術の適用範囲の拡大、新規削減アイテムなどを積み上げています。具体的には、溶銑配合率低減によるスクラップの使用拡大や各プロセスの省エネ投資、また、電気炉も含めた新プロセス導入も選択肢として考えています。一定の手応えを得られており、かなり実現性が高い30%という目標だと認識しております。

質問者：なるほど。では、何か画期的な技術が2030年頃に確立しているということではなく、例えばフェロコックスやスクラップの使用増、あるいは競合他社のようなHBIの投入等、いろいろな既存技術で目標達成しようということですか。

JFE：既存技術で目標達成をしようと思っております。

質問者：分かりました。どうもありがとうございました。

司会：ありがとうございました。

それでは、次のご質問をお願いいたします。

質問者：まず、スプレッドに関する質問です。資料の20ページにある「業績見通しの前提」の記載に、販売価格に関して、「主原料コストの販売価格への早期反映の取り組みが想定以上に広く定着した」とあり、今回の業績見通しにおけるスプレッドの上方修正については、国内の販価の改善が大きな要因かと推測します。国内の販価改善については、この早期反映で引き上げているのか、あるいは、ベース価格の値上げで引き上げているのか、考え方を教えてください。

2点目は商社事業についてです。北米グループ会社が好調とのことですが、北米の鋼板市況は下落してきています。市況の下落に対して、北米でパイプを取り扱う子会社であるKelly Pipeはオイ

ルマーケット連動なので、鋼板市況の下落の影響を受けず、割と良い状況は続くという考え方でいいのか教えてください。

3点目はCO₂削減に関する質問です。今回の削減目標である30%以上の中には、高級鋼を電炉でつくるような取り組みが含まれているのか教えてください。

JFE： 販価につきましては、従前より申し上げてきておりますように、ボラティリティの大きい原料価格の影響をなるべく収益に反映させないために、主原料コストの販価への早期反映に取り組んできております。この早期反映の効果も出てきておりますし、合金鉄等の諸物価の上昇分を販価に反映するために、いわゆるベース価格の修正も行ってきております。ご質問に対して答えるとすれば、両方の取り組みを合わせた成果だということです。

商社事業の業績見通しに関してですが、ご指摘のとおり、収益が好調な北米グループ会社の中心になるのは Kelly Pipe になります。北米の市況はピーク時に比べるとやはり下がっている状況ではあります。しかし、その中で、選別受注を実施したり、在庫を運用したりと、非常に様々な対応を実施しており、結果として一定のスプレッドを維持し、業績を上方修正しました。

昨年夏頃に比べれば、全体のマーケット指標は下がってきていますが、なんとか今年度中は、一定水準のスプレッドを維持できるであろうということで、今回は商社事業の業績を上方修正しました。来年度に向けては、次なる課題があるとは思いますが。

最後に、CO₂削減につきましては、ご指摘もございましたとおり、GI 基金の中で、われわれも電気炉での高級鋼の製造技術の開発にも参画しており、技術の確立の目途がある程度立ってくるのではないかとこの点も織り込んでいます。

質問者：分かりました。ありがとうございました。

司会： それでは、次のご質問をお願いいたします。

質問者： よろしく申し上げます。二つあります。

1点目は、販売価格への主原料コスト早期反映の効果の確認です。第1四半期から第3四半期までの累計でのスプレッドの改善の効果は、主原料指標が一番高い時期を基準に原料物価差を計算しているためかもしれませんが、鋼材トン当たり1,000円という解説になっております。（次頁スライド参照）



2020年度4-12月

JFEスチール

⇒ 2021年度4-12月 セグメント利益 +3,539億円内訳

販売価格の改善や粗鋼生産量の増加に加え、国内外グループ会社収益の改善により、3,539億円の改善

(億円)

JFEスチール	2020年度 4-12月	2021年度				増減
		4-6月	7-9月	10-12月	4-12月	
セグメント利益	▲1,019	697	888	935	2,520	+3,539

1. コスト	+230	・ 設備投資効果 等
2. 数量・構成	+560	・ 鋼材需要回復による数量増 (粗鋼量1,644万t⇒1,920万t)
3. 販価・原料	+170	(≒鋼材トン当たり：1,000円) ・ 主原料価格は上昇するも、 国内外の需給・市況を背景に、スプレッドは改善
4. 棚卸資産評価差等	+2,350	・ 棚卸資産評価差+1,640 (▲410→+1,230) ・ 原料キャリーオーバー影響+620 (▲20→+600) ・ 為替換算差+90 (▲50→+40)
5. その他	+229	・ 国内外グループ会社収益の改善 ・ 金属・スクラップ等の物価上昇 等

16

一方で、第3四半期から第4四半期にかけては、メタルスプレッドの改善幅が鋼材トンあたり1万6,000円ということで、上期から下期にかけてメタルスプレッドの改善代の段差が大きく、主原料コストの早期反映が浸透するにつれてメタルスプレッドの改善効果も大きくなっているように見えます。(下段スライド参照)



2021年度10-12月

JFEスチール

⇒ 2021年度1-3月 セグメント利益 ▲425億円内訳

(億円)

JFEスチール	2021年度					増減
	4-6月 実績	7-9月 実績	10-12月 実績	1-3月 見通し	年間 見通し	
セグメント利益	697	888	935	510	3,030	▲425

1. コスト	±0	
2. 数量・構成	+80	・ 粗鋼量 649⇒680万t +31万t
3. 販価・原料	+1,000	(鋼材トンあたり：+16,000円) ・ 鉄鉱石価格の下落に加え、前四半期の原料炭価格高騰 を販売価格に早期反映し、スプレッド改善
4. 棚卸資産評価差等	▲1,080	・ 棚卸資産評価差▲360(+640→+280) ・ 原料キャリーオーバー影響▲690(+300→▲390) ・ 為替換算差▲30(+30→±0)
5. その他	▲425	・ 減価償却費・経費 他

38

新しい販価決定フォーミュラの下では、次年度4月からすぐ、自動車分野以外の主原料連動分野を中心に、足元高騰している原料価格を前提とした販売価格交渉の決着が期待されます。国内販価については、期初から原料の価格上昇に対してタイムラグなく反映していけるという見方をしておいて良いのか確認させてください。

2点目はエンジニアリング事業についてです。収益見通しは据え置き、受注は若干期ずれということですが、今期の受注高自体は売上収益を上回る水準ではありますので、次年度に向けては、引き続き増収増益トレンドを期待できる流れになっているのでしょうか。また、カーボンニュートラル分野の大型案件の受注が増えているというコメントもありますが、このカーボンニュートラル案件はどのように収益に貢献してくるのでしょうか。すぐ売上に反映するにはまだ時間がかかるのかもしれないですが、この辺りの収益性も含めて、トレンドを解説いただけたらと思います。

JFE：まず販価について回答します。足元の原料炭価格の水準は高位継続しており、鉄鉱石価格も上がってきておりますので、来年4月以降の主原料価格の反映については、国内につきましては垂直で立ち上がっていきと見ています。さらに、諸物価の上昇分も含めて、よりお客様と交渉しながら、価格の上昇を目指していきたいと考えております。

エンジニアリング事業につきましては、詳細な回答は差し控えますが、ご指摘のとおり、受注案件がたちまち収益に結びついてくるというわけではありません。ただ、中期計画では、売上収益を大幅に拡大し、利益を上げていくという計画を出しております。来年度は、今中期計画の2年目になってきますので、今年度以上に力をかけて頑張っていきたいです。

質問者：分かりました。ありがとうございます。

司会：ありがとうございました。

それでは、次のご質問をお願いいたします。

質問者：1点目は、JFE スチールの上期から下期にかけてのスプレッドの改善、プラスの430億円に関して、国内と輸出、紐付きと店売りについて内訳を教えてください。

2点目は、単独の粗鋼生産の見通しを50万トン下げたという点について、特に生産トラブル等は無かったということでしょうか。採算重視の選別受注という事についても、具体的にご解説ください。

JFE：上期から下期のスプレッドの改善については、大きいのはやはり国内です。改善額はおそらく海外の約3~4倍は国内の改善が大きいという、概ねそのようなイメージだと思います。また国内については紐付き、店売りともにいずれも改善しています。

数量ですけれども、全くトラブルが無いというわけではなくて、第3四半期に若干小トラブル等があったのも事実ですが、足元の第4四半期の状況で言いますと、自動車の減産で薄板が減る一方で、厚板等の品種はフルに近い状態になっています。そうした状況を踏まえ、設備工事計画をずらす等の手段で数量を挽回する事はせずに、下期に予定していた設備工事等を計画どおり進め、自然体でやっていくという形で、生産計画を組み直しています。

司会：ありがとうございました。それでは、次のご質問を最後とさせていただきます。よろしくお願いたします。

質問者：まず1点目が、第3四半期から第4四半期にかけて利益がかなり改善する計画になっていますが、利益変動について解説をお願いします。また第4四半期の原料炭価格の前提を教えてください。

2点目は対前回の見通しと比較して国内外のグループ会社収益がかなり向上しているとの事ですが、具体的に向上した会社がどういったところか教えてください。



2021年度10-12月

⇒2021年度1-3月 セグメント利益 ▲425億円内訳

JFEスチール

JFEスチール	2021年度					増減
	4-6月 実績	7-9月 実績	10-12月 実績	1-3月 見通し	年間 見通し	
セグメント利益	697	888	935	510	3,030	▲425

(億円)

1. コスト	±0	
2. 数量・構成	+80	・粗鋼量 649⇒680万t +31万t
3. 販価・原料	+1,000	(鋼材トンあたり：+16,000円) ・鉄鉱石価格の下落に加え、前四半期の原料炭価格高騰を販売価格に早期反映し、スプレッド改善
4. 棚卸資産評価差等	▲1,080	・棚卸資産評価差▲360(+640→+280) ・原料キャリーオーバー影響▲690(+300→▲390) ・為替換算差▲30(+30→±0)
5. その他	▲425	・減価償却費・経費 他

JFE：前頁の表にあるように、1点目の第3四半期と第4四半期のJFEスチールの利益については、425億円の減益になるのですが、その最大の理由が棚卸評価差等の1,080億円のマイナスで、これを除くと実質的な利益は655億円の改善です。プラスになっている最大の要因は販価・原料の1,000億円です。これは海外の市況が弱含んでいる一方で、国内の価格改善に取り組む効果を見込んでいます。また鉄鉱石の価格が第4四半期に下がるという影響も大きく出ていますし、第3四半期で大きく上がった原料コストを一部期ずれで、第4四半期に販売価格で取り返すということで、実質的な損益が大きく改善するということです。

第4四半期の原料炭価格ですけれども、直近の足元の市場最高値と言われているような価格を見て、2月末まで今のレベルが続いたとして、12月から2月で平均の市場価格がこれぐらいになりそうだというレベルで見てください。

2点目のJFEスチールの国内外のグループ会社の収益の改善がどういったところかというご質問ですが、これは、国内のグループ会社においてはマンガンやクロムを扱っている会社があり、市況が上がることによって収益が拡大しています。さらに海外も商社事業が北米で増益という話がありましたが、スチールも北米のカルフォルニアスチールが好調であり、またタイ、インドネシアで展開している表面処理の会社も非常に好調であるというところが、収益改善の主なところではあります。

質問者：ありがとうございます。

司会：ありがとうございました。それでは、質問は以上でございますので、以上で質疑応答を終了させていただきます。それでは、これもちまして、本日のインベスターズ・ミーティングを終了させていただきます。本日はご参加いただきまして、誠にありがとうございました。

[了]

本資料は、金融商品取引法上のディスクロージャー資料ではなく、その情報の正確性、完全性を保証するものではありません。また、提示された予測等は説明会の時点で入手された情報に基づくものであり、不確定要素を含んでおります。従いまして、本資料のみに依拠して投資判断されまことはお控え下さいますようお願い致します。本資料利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。